

いわての“大地”と “ひと”と共に



<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/newsletter.shtml> <岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

国立大学法人 岩手大学
地域連携推進部
地域創生推進課

〒020-8550
岩手県盛岡市上田 3-18-8
TEL.019-621-6629
FAX.019-621-6999
E-mail.sanriku@iwate-u.ac.jp
平成 28 年 9 月 30 日発行

学習支援班「唐丹小学校における長期休業期間中の学校開放ボランティア」



唐丹小学校の校舎と校庭
新校舎を建設中のため重機や工事用の看板が目に入ります。

釜石市立唐丹小学校は、東日本大震災で校舎が津波の被害に遭い、現在は場所を移し、震災から5年を経過した今もプレハブの校舎で児童たちは学んでいます。新校舎を敷地内に建設中ですが、校庭の面積も少なく、体育館は隣接する中学校と共用しており、仮設住宅で生活している児童もいるため、体を動かしたり遊んだりする活動に制限がかかっています。このような状況から釜石市教育委員会の依頼を受け、岩手大学では今まで学生達が夏休みや冬休みの長期休業中に開放された体育館で児童達と遊ぶ活動等に取り組んできました。

今夏も活動を行い、最終日の8月9日は、岩手大学からは6名が参加し、筑波大学から来ていた学生とともに、児童がやりたいことを優先して、一緒に遊びました。活動時間は2時間でしたが、ドッジボールやバスケットボール、バドミントン、フラフープ等さまざまな遊びを一杯楽しみました。今回は教育学部の卒業生も参加し、小学校1年生の時から見てきて「先生になって来てね」と言葉をかけてもらった児童と再会を喜び合い、教員になったことの報告と感謝の気持ちを伝えていました。

暑い日でしたが、児童達はそれも吹き飛ばす位、元気に動いていました。子どもたちと触れ合い、「楽しかった」、「冬休みも来て」という児童からの言葉に、学生たちもパワーをもらった一日となりました。子どもたちの夏休みの楽しい思い出の1つになってくれたらと願っています。



ドッジボールが大人気

卒業生からメッセージ



及川 光代さん

教育学部OG。在学中は、唐丹小をはじめ大槌町立大槌学園等で子ども支援にあたる。現在は、岩手県内の小学校で教師として勤務。

私は大学2年生から活動に参加しています。私にとって小学生と接することがこの活動の最大の魅力です。子どもと接することで教員になりたいという思いがより強いものになり、試験勉強に励むエネルギーを貰いました。今、私が教員になることができたのは、この活動があったおかげであると感じています。また、被災地の学校の現状を知ることができたことも私の収穫の一つです。同じ岩手県に住んでいても、行ってみなければ知らないことが沢山ありました。この活動ではむしろ私が唐丹の子どもたちからエネルギーを貰っていますが、被災地の為に出来ることをし

ていきたいです。

最後に、岩大生のみなさんへ。講義を受けるだけではなく、積極的に体験して下さい。特に教員を志す方にとって、子どもと接する機会はそうそうありません。チャンスだと思い参加して下さい。



最後は皆でピース

釜石市教育委員会からメッセージ



瀬戸 亮さん

釜石市教育委員会事務局
生涯学習文化課
主任兼社会教育主事

まずもって、学生やOBの皆さん、三陸復興・地域創生推進機構の皆さん、此度もまた本市の子どもたちのため、楽しく有意義な時間を届けてくださり本当にありがとうございました。安心安全な環境で子どもたちが大声を出し、自由に走り回り、開放的な気持ちで遊ぶことのできる場づくりが求められていますが、皆さんのご支援があったからこそ実現したものです。また、子どもたちのあの笑顔、生き生きとした姿が見られたことが、何物にも代え難いこの活動の効用であると捉えています。

学生等の皆さん、子どもたちのあのパワフルな言動に驚かれたかもしれませんが、引き出したのは皆さんです。どうぞこの活動を契機に尚の自信と誇りを持ち、教育活動に関わらず、また、机上では紡ぐことのできない人と人とのつながりやそこから生まれる有意性を大切に、今後とも充実した生活をおくることを期待しています。(子どもたちは皆さんのことを覚えています!また来てくださいね。)

生涯学習部門「シニアカレッジ」

9月7日から13日までの7日間「岩手大学シニアカレッジ2016」が開催されました。今年も岩手県内外から28名のご参加をいただきました。参加者の8割以上は東京よりも西側に在住している方で遠くは福岡県からもご参加いただきました。

○そもそも岩手大学シニアカレッジとは？

岩手大学と岩手県内の自治体や各地域の方々が連携して実施する滞在型生涯学習プログラムです。

「学びたい」という動機があれば、どなたでも参加できます。もちろん年齢制限や入学試験もありません。

大学構内の専用教室での講義やフィールドワークなどを通じて、受講生同士の交流、地元、学生たちとの出会いの場ともなります。

○今回のテーマは「宮澤賢治生誕120年」。

2007年の開講から10回目の節目を迎える今回のシニアカレッジは、岩手大学の前身である盛岡高等農林学校の卒業生である「宮澤賢治」をテーマとしました。くしくも今年には宮澤賢治生誕120年目にあたる年でもあります。

今年のカレッジは岩渕学長の「岩手大学が目指すもの」と題した講義から始まり、宮澤賢治を題材とした講義はもちろんのこと、人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、平泉文化研究センター、三陸復興地域創生推進機構の教員がそれぞれの専門分野に関する講義を行い、7日間で計14の講義が行われました。講義では、遠野物語の生みの親である佐々木喜善や世界遺産「平泉」、全国有数の産出額を誇るニワトリに由来する課題研究といった岩手にゆかりの深い講義だけでなく、ものづくり産業を支える工作機械（マザーマシン）の最新研究や超高齢化社会を目前に控えて顕在化してきた高齢者の貧困や社会的孤立といった課題に対しての生涯学習的視点からの講義など、最先端の研究成果に触れる機会となりました。また、宮澤賢治の弟である清六さんのお孫さんにあたる宮澤和樹さんをお招きして「祖父、清六に聞いた兄・賢治」と題した講演もしていただき、普段では知ることができない宮澤賢治の別の一面を垣間見ることができました。



「岩手大学が目指すもの」と題した講義（岩渕学長）

フィールドワークでは、童話「銀河鉄道の夜」の始発駅のモデルとなった東和町にある「土沢駅」や賢治が歩いた峠道「五輪峠」、賢治が実際宿泊したという人首町にある「菊慶旅館」など「宮澤賢治ゆかりの地」を訪れました。宮澤賢治が生み出した数々の作品、その起源となる風景を見て歩くことで、賢治の世界に酔いしれることができました。



フィールドワークで訪れた五輪峠にある「五輪塔」

1週間のシニアカレッジを終え、参加者からは「中身の濃い講義で満足の7日間でした」、「今回の宮澤賢治さんの見ていた風景を追体験できたことは新鮮でした」、「この目で岩手大学と岩手県内の自然をみることができ大変良い機会だったと喜んでます」などの声をいただきました。



シニアカレッジ10周年記念ポロシャツを着て集合写真撮影

台風10号被災地へのボランティア活動

8月30日から31日にかけて岩手県を直撃した台風10号により、河川決壊や土砂災害など三陸沿岸の各地域では甚大な被害が発生しました。

岩手大学は、久慈、宮古、大船渡市の各エクステンションセンターと釜石サテライトのコーディネーターが各自治体の支援ニーズを確認し、東日本大震災発災時に取り組んだボランティアのノウハウを基に、各被災地で9月3日（土）からボランティア活動に取り組んでいます。

通行止めだった国道、県道が開通するにつれ、市外・県外からボランティアが集まっていますが、山間部での高齢者世帯からのボランティアニーズは多く、長期的なボランティアが望まれています。

岩手大学では、「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」をスローガンに、これからも継続してボランティア活動に取り組んでまいります。



浄土ヶ浜の流木撤去作業（宮古市）

ボランティア状況（平成28年9月21日時点）

自治体名	活動日	主な内容	延べ参加者数
久慈市	9月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、15日(木)、16日(金)	住宅及び周辺の泥上げ、家屋の清掃、家財の搬出	288名
宮古市	9月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)		
岩泉町	9月20日(火)、21日(水)		

※このボランティア活動は、音楽グループ「スターダスト☆レビュー」からの寄附をうけて取り組んでいます。



浄土ヶ浜レストハウスの流木撤去作業（宮古市）



庭先の泥上げ作業①（久慈市）



庭先の泥上げ作業②（久慈市）

地域創生部門の紹介

地域創生部門は、技術相談、共同研究の申込みなど、地域の様々な課題の解決を支援する大学の窓口を担っている一部門です。

地域創生部門では、専任教員1名とともに、県内11市との相互友好協定を基に、県内5市（久慈市、八幡平市、盛岡市、花巻市、釜石市）の市役所の職員が常駐して、地域の企業や行政の課題を岩手大学とつなぐ活動を進めています。いつでも気軽にご相談いただければと思います。

また、岩手銀行、北日本銀行等の金融機関、および岩手県立大学、岩手医科大学、一関高専、東北農業研究センター、岩手県工業技術センター、岩手生物工学研究センターなどと連携し、岩手産学連携推進協議会（リエゾン-I）を運営しています。リエゾン-Iでは、毎年研究シーズと企業ニーズのマッチングを行うマッチングフェアを開催し、地域企業と岩手大学の共同研究の推進を図っています。

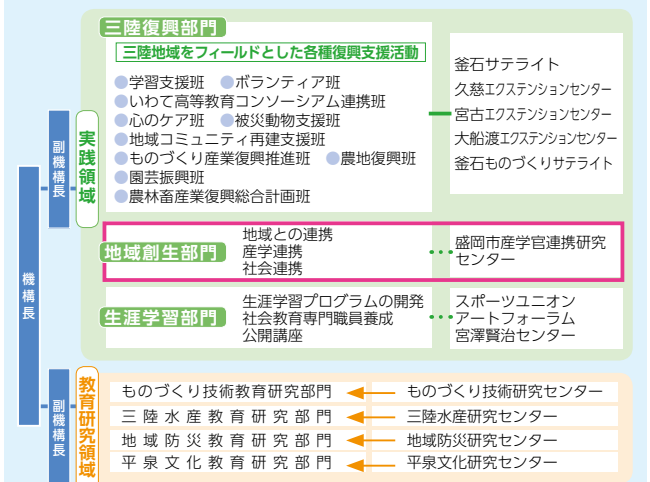
より本格的な共同研究や、事業化のための研究を行う場所が、理工学部の西端にある盛岡市産学官連携研究センター（コラボミウ）です。コラボミウは盛岡市が岩手大学の敷地内に建設した大学発ベンチャー企業等を育成するための施設です。当部門ではこの施設の管理運営も行っています。現在大学発ベンチャー企業4社、県内企業4社、県外企業8社が入居しています。

大学や企業の研究のわかりやすい話を聞くMIU Cafeというイベントも1、2ヶ月に1回程度開催していますので、是非ご参加ください。



MIU Cafeの様子

三陸復興・地域創生推進機構組織図



共同研究員だより

釜石市

釜石市産業振興部企業立地課

井上 諭宜



岩手大学と釜石市

岩手大学と釜石市は、平成13年に相互友好協力協定を結びました。釜石市は、県内自治体として、最初の相互友好協力協定締結自治体であることから、共同研究員だよりの初回を担当させていただくことになりました。

共同研究員とは

釜石地域に関わる産学官連携活動や、東日本大震災からの復興に係る各種協同のコーディネートを行っています。市内の地域・企業・団体・公的機関を巡り、抱えている諸課題について把握します。そして、岩手大学の先生や各機関専門家とのマッチングを行い、解決や共同研究へと結びつける活動を行っています。地域が持つ多面的な特性がそのまま共同研究員のフィールドとなるため、関わる分野は農林水産、ものづくり、食品、教育、観光、スポーツ等と多岐に及びます。

一枚の写真から

写真は、東京都にある岩手県アンテナショップいわて銀河プラザにて6月に開催した「岩手大学フェア2016」出品商品の一部です。「甲子柿ドレッシング」や「柿酢サイダー」については、これから旬を迎える釜石甲子地域特産品である甲子柿の栄養機能成分分析とその加工方法について岩手大学と連携しています。中央には岩手大学との共同研究で風味を保ったまま賞味期限をのばした生蕎麦製品「いわて南部地粉そば」があり、釜石湾漁協白浜浦支所女性部の新商品「わかめの芯ちゃん」は釜石サテライトから販売促進などの支援を受けて開発されました。このように釜石には大学と所縁のある商品が誕生しています。

これからについて

先日、水産加工会社と柿生産者の共同開発によるお弁当「釜石柿の葉すし」が販売開始されました。また、岩手大学から助言・指導を頂いたことを契機に、船体等に使われるFRP(繊維強化プラスチック)素材を用いた劣化しにくい津波避難階段の設計・試作の取り組みも始まります。今後も、釜石市と岩手大学の取り組みに是非ご注目ください。



釜石市内の現在の金属製の避難路の様子



柿の葉すし(さば・さんま)の見本



「岩手大学フェア2016」釜石市関連商品の一部

Information

「フィールドセミナー

ーウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森ー

11/13(日)

滝沢演習林でウォッチングビンゴをしながら森の樹木、草木、虫、鳥などを観察するセミナーを開催し、秋の森の様子、生き物の姿について理解を深めてもらいます。

- 会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 滝沢演習林
- 時間／9:30～12:30
- 対象／市民一般・親子
- 募集人数／20人
- 講習料／無料

「牧場機械体験」

11/23(水・祝日)

農業機械の運転体験等を通じ、農業への理解を深めてもらいます。

- 会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 御明神総合施設
- 時間／8:30～13:30
- 対象／親子(子は小学生以上)
- 募集人数／10組または25名
- 講習料／500円(傷害保険料100円・昼食代400円)

▼上記の公開講座の問い合わせ先は下記のとおりです
地域連携・COC推進課(土日祝日除く9:00～17:00)
TEL:019-621-6492 / FAX:019-621-6493
E-mail:renkei@iwate-u.ac.jp

「岩手大学三陸復興・

地域創生推進機構発足記念シンポジウム」

11/25(金)

岩手大学は東日本大震災以降、被災県にある国立大学として地域の復興推進・支援の役割を果たすことを使命としてきました。

第三期中期目標期間においても、復興支援活動の継続などにより「地域を先導する」大学を目指し、三陸復興事業及び地域連携事業を長期的に継承する体制として、平成28年4月に「三陸復興・地域創生推進機構」を設置しました。

この機構は、再建途上の三陸の復興と人口減少化にある岩手県のまち・ひと・しごとの創生を目指し、人口減少と産業衰退が予想される岩手県における地域創生モデルの構築、自治体等への提言などに向けた連携を進めることにより、地域の持続的発展に貢献することを目的としています。

「三陸復興・地域創生推進機構」発足に際し、下記のとおり記念シンポジウムを開催します。

- 日時／平成28年11月25日(金) 14時30分～17時(受付:14時)
- 会場／岩手大学復興祈念銀河ホール
- 次第：挨拶 岩手大学長 岩淵明
三陸復興・地域創生推進機構の説明
岩手大学理事・副学長 菅原悦子
特別講演Ⅰ 文部科学省科学技術・学術政策局
産業連携・地域支援課長 坂本修一氏
特別講演Ⅱ 遠野市長 本田敏秋氏
記念祝賀会(会費制)
- 対象／一般市民

▼問い合わせ先
地域創生推進課(土日祝日除く9:00～17:00)
TEL:019-621-6629/ FAX:019-621-6999